



かけはし

平成28年11月 1日

ふるさと智恵文に誇りをもつ輝く智小っ子を「地域ぐるみ」で育てましょう

お陰様の心

校長 川崎 直人

「お元気ですか。」 「はい、お陰様で……。」

日本では、昔からこうした挨拶を大切にしてきました。

「お陰様」という言葉には、次のような説があります。

昔、旅人が暑い夏の日差しをしのぐために木の陰で休んだり、また、雨や風、雪を防ぐために木の陰で雨宿りをしたりしました。その木の陰に「お」をつけて「お陰」、さらに「様」をつけました。そこには「お陰様」で旅を続けることができましたと感謝する気持ちが込められています。



木は旅人のために枝を張り葉を茂らせていたのではありません。木はただ精一杯、木として生きているだけですが、木のお陰で旅を続けることができたのだと昔の人は考えたわけです。

さて、智恵文小学校にはいろいろな行事で地域の人や友朋学級の人に来ていただいています。先月の収穫祭でも何人かの友朋学級の方から「子どもたちのつくったカレーはとても美味しくいただきました。お陰様で元気が出てきました。」とお褒めの言葉をいただきました。

木が精一杯枝を張るように、子どもたちが一生懸命育てた野菜で、頑張って作ったカレーライスが、友朋学級の方々に元気も差上げたのでしょ。

子どもたちは、喜んでもらうために頑張ったわけではありませんが、結果として自分たちの頑張りが、たくさんの人たちに喜びと元気を届けることになりました。子どもたちにとっては大変な励みと自信につながりました。そして自分たちも多くの人たちに励まされ、支えられているという「お陰様」の心に気付かされたのでした。

もうすぐ学芸会です。子どもたちは、人は一人で生きているのではなく、どこかで誰かに支えられているという「お陰様」の心をもって練習に励んでくれました。当日は保護者・地域の皆様に元気と感動をお届けできることと思います。どうぞお楽しみに！

